















# 不鳴千鳥

(七八) 長谷川 伸

## 捕虜實驗談

(四) 露國の暗黒面

十一月十九日さいれもあ丸にて出發御通知第五回書送呈す  
本桑花旅館組合主催第七回  
全國員募集し洋觀光園中込所組合旅館



女角力の興行が二日市町に始  
まつた際のことです、軒を並べた  
温泉の宿の人々が、おしゃがてら  
廣くもい田園の美しいを舐めて  
廣く吹かれながら、ぞろぞ  
天井山が聳えてます。町の  
夏の闇のと語る宵を、星の  
燐く大空の下に景色あざやかな  
白地の浴衣、簞頭絞り、博多の  
椅子に足を投げ出し、それ等  
を眺めてゐるのは岡田徹です、  
彼は露枝を失つてから自暴自棄  
の深い行ひに陥つて以來、未だ  
深く食ひ込んだ面つれは未だ  
寝るままであります。

桶に白い手をのせて覗くやうに  
して、湯の町の人影を眺めてゐ  
るスラリとした白地の後姿は「龍」  
神家の「龍」です。二人とも扇  
は手にさげてわまさが舟を折  
道ふだけです、涼しい風は二人  
も聞き入つてゐる様子です。  
博多町はほんないが、女山  
の姿が、ちよ、桶ごしに  
細い美しい女の聲が聞こえて来て  
まし。

「新博多ね」  
「あ、よしだやつたわ」  
「新の字のつくものは大抵い  
ないね、新穀、新レンズ、  
新南などつてさうだ。僕の矢張  
博多の方のがいい」  
「あら、貴郎は浪花節が一番自  
己より

生徒「二十万年前の骸骨を見  
ました」と表し、それが鑑定達  
ら如何します

ネブラスカの大學教授「骸骨で  
見る位置にあるこの窓から  
外の光景を眺めることが獄中唯  
一の娯みであつた

に試はれずにもます。

桶に

して、湯の町の

後姿は「龍」

の手

にさげて

わまさが舟

を折る

道ふだけ

です、涼しい

風は二

人

も聞き入つて

る様子

です。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに

細い

美しい

女の聲

が聞こえて来て

まし。

新博多ね

あ、よしだやつたわ

新の字の

つくもの

は大

抵い

ないね、新穀、新レンズ、

新南など

つてさうだ。

僕の矢張

博多の方

がいい

あら、貴郎は浪花節が一番自

己より

ぞれ

ます。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに

細い

美しい

女の聲

が聞こえて来て

まし。

新博多ね

あ、よしだやつたわ

新の字の

つくもの

は大

抵い

ないね、新穀、新レンズ、

新南など

つてさうだ。

僕の矢張

博多の方

がいい

あら、貴郎は浪花節が一番自

己より

ぞれ

ます。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに

細い

美しい

女の聲

が聞こえて来て

まし。

新博多ね

あ、よしだやつたわ

新の字の

つくもの

は大

抵い

ないね、新穀、新レンズ、

新南など

つてさうだ。

僕の矢張

博多の方

がいい

あら、貴郎は浪花節が一番自

己より

ぞれ

ます。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに

細い

美しい

女の聲

が聞こえて来て

まし。

新博多ね

あ、よしだやつたわ

新の字の

つくもの

は大

抵い

ないね、新穀、新レンズ、

新南など

つてさうだ。

僕の矢張

博多の方

がいい

あら、貴郎は浪花節が一番自

己より

ぞれ

ます。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに

細い

美しい

女の聲

が聞こえて来て

まし。

新博多ね

あ、よしだやつたわ

新の字の

つくもの

は大

抵い

ないね、新穀、新レンズ、

新南など

つてさうだ。

僕の矢張

博多の方

がいい

あら、貴郎は浪花節が一番自

己より

ぞれ

ます。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶

の姿

が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、

桶ごしに細い美しい女の聲が聞こえて来てまし。

桶の姿が、ちよ、</